



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

yamaguchi Japanese Red Cross Society

赤十字やまぐち

2013
Spring
春号

発行／日本赤十字社山口県支部 〒753-0094 山口県山口市野田 172-5 TEL.083-922-0102 <http://www.yamaguchi.jrc.or.jp/>



県民の皆様へ

日本赤十字社
山口県支部長
二井 関成

赤十字活動については、平素から温かいご支援ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

赤十字では、人道の理念のもとに、人々の生命と健康・尊厳を守るため、災害救護活動をはじめ救急法などの講習普及事業、医療事業や血液事業、赤十字ボランティアの育成、発展途上国の開発支援事業など、幅広い活動を行っております。未曾有の大災害となった東日本大震災においても山口県支部の救護班やボランティア等125名が現地で活動しました。赤十字のこうした活動は、すべて皆様から寄せられる社資によって支えられております。

本年も、5月を中心に「赤十字社員増強運動」が全国一斉に展開されます。この機会に赤十字事業の充実のために、皆様の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

5月は 赤十字運動月間です

皆様一人ひとりの
善意が
赤十字の源です

5月は「赤十字運動月間」です。これは、5月8日が赤十字の創設者アンリー・デュナンの生誕日(世界赤十字デー)であり、5月1日が日本赤十字社の創立記念日であることにちなんだものです。日本赤十字社は、「人間のいのちと健康、尊厳を守る」ためのさまざまな人道的活動を展開していますが、その財源は「社員」から寄せられる「社費」と、個人・企業等から寄せられる「寄付金」です。日本赤十字社は、世界の赤十字の一員として中立の立場から、その活動資金を国や特定の団体に頼るのではなく、広く一般の皆さまにご協力を呼びかけています。ひとりでも多くの皆さまに赤十字の事業をご理解いただき資金面で日本赤十字社を支えていただくようお願いします。



※メモ：日本赤十字社法(昭和27年8月14日法律第305号)第4条第2項 日本赤十字社は社員をもって組織する。

平成24年度 第2回評議員会を開催しました

平成24年度第2回評議員会が、1月29日山口市において開催されました。会では二井支部長がニーズに応じた事業を積極的に展開し、県民の信頼と期待に応えていきたいと挨拶。平成25年度の山口県支部における事業計画案及び支部・各施設の予算案等8議案が審議され承認されました。なお、評議員任期(3年間)が満了となるため、現評議員での最後の会議となりました。



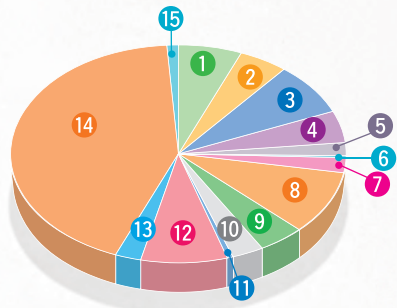
平成25年度における日本赤十字社山口県支部の事業重点項目

- (1) 組織的な災害救護体制の推進と、即応できる救護員の研修・訓練
- (2) 県下へのAED第二次整備と、移動式炊飯器の配備
- (3) 救急法等講習会における受講者目標15,000人
- (4) 子育て支援としての幼児安全法講習会の充実
- (5) 講習普及効果の検証と安全思想の普及を図る救急法競技会の開催
- (6) 赤十字奉仕団の特性を生かしたボランティア活動の推進
- (7) 青少年赤十字の指導者に対する研修の充実強化
- (8) 赤十字社員加入につなげる地域への赤十字事業紹介の強化
- (9) 戦略的な広報活動の展開

日本赤十字社山口県支部の事業活動は皆様からの活動資金に支えられています。

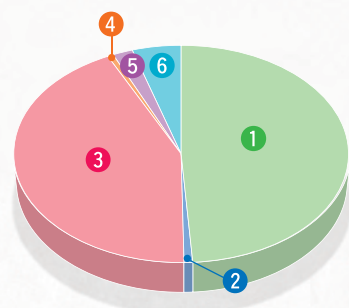
平成 25 年度 収支予算

〈歳出〉 計467,000,000円



- ⑪ 施設整備管理のため2,420千円
- ⑫ 事業管理運営のため38,885千円
- ⑬ 資金積立のため11,650千円
- ⑭ 貸付金支出のため200,000千円
- ⑮ その他5,000千円

〈歳入〉 計467,000,000円



- ① 社資収入229,000千円
- ② 補助金及び交付金収入3,394千円
- ③ 繰入金収入201,000千円
- ④ 貸付金償還金収入3,000千円
- ⑤ 雑収入8,606千円
- ⑥ 前年度繰越金22,000千円

●災害救護活動

災害に備え、常に救護員の訓練・研修を行うとともに、発災に伴い、迅速に救護活動を展開するとともに、被災者のこころのケア、救援物資配送・提供などさまざまな支援活動を行います。



●救急法などの講習会

緊急時の手当、事故防止に必要な知識・技術の普及に努めます。AEDの使い方や心肺蘇生法、高齢者の支援に役立つ介護技術、子どもの事故の防止と手当、水難事故から身を守るための技術などの講習会を行います。



赤十字では人間のいのちと健康・尊厳を守るために様々な活動を展開しています。

●赤十字ボランティア

赤十字の事業や活動は、多くのボランティアによって支えられています。県下でも55団21,000名の赤十字奉仕団員が地域に根ざした活動や、特殊技能を生かした活動を展開しています。



●青少年赤十字

県下の幼稚園(保育園)から高等学校までの19園140校、約22,000名が、「健康・安全、奉仕、国際理解・親善」を実践目標に、「気づき、考え、実行する」力を教師の指導のもとに育んでいます。

●国際活動

紛争や災害で苦しむ人々を救うため、世界187の国と地域に広がる赤十字と協力して、緊急救援活動や、復興支援活動を行っています。これらの活動には、「NHK海外たすけあい」や随時寄せられる救援金が大きな財源となっています。



中国四国各県の赤十字が合同災害救護訓練を実施しました。

10月27日、28日の両日、愛媛県松山市の松山港外港埋立地で中国・四国各県支部合同の災害救護訓練が行われ、各県赤十字救護班、ボランティア約350名が参加しました。訓練は、伊予灘を震源とするマグニチュード7の地震が発生し、松山市を中心に甚大な被害が出たとの想定。山口県支部からも17名の救護員と、10名のボランティアが参加しました。この訓練では、東日本大震災の救護活動の検証を踏まえ、日本赤十字社が進めている救護装備の近代化に対応した操作訓練や、医療救護と救援物資の配分、被災者のこころのケアなど急性期から中長期にわたる支援活動を各県支部が緊密に連携して演習しました。



ケガ人に三角巾を使って
手当する救護看護士



後方の医療機関にケガ人を
搬送する救護員

大規模災害に備えて「山口県総合防災訓練2012」に参加しました。



ケガ人を担架で搬送する
防災ボランティアの皆さん



山口県支部は、8月26日に和木町で開催された「山口県総合防災訓練2012」に医療救護班1個班(5名)と赤十字防災ボランティア18名が参加しました。日本赤十字社では大規模災害時に医療救護班等を派遣し救護活動を実施します。今回の訓練では、「地震によるマイクロバス2台の衝突事故で多数のけが人が発生した」との想定により、消防、警察、他の医療機関と連携し、救護班は重傷者などの応急手当を、防災ボランティアは軽症者の手当やケガ人を担架で搬送するなど、迅速かつ機敏に対処しました。

親子で防災を学ぶ「赤十字親子防災体験教室」を開催しました。

防災意識を家族の中から高めていくことを目的に、9月2日に山口県支部で「赤十字親子防災体験教室」を開催し、小学生と保護者約80名が参加されました。阪神・淡路大震災を契機に高まった「自助・共助」への関心や東日本大震災の教訓も踏まえ、防災ボランティアの協力で指導した今回のテーマは、「災害から防災を考えよう」。東日本大震災における赤十字の活動紹介や、AEDを用いた一次救命手当、非常食の炊出しなどを実施し、緊急時に子どもを背負って避難する訓練など「親子のふれあい」の場ともなりました。

親子で避難訓練を行いました
子供を背負って避難するお母さん



AEDってなんだろう？
救命手当を真剣に見る子供たち

青少年赤十字国際交流事業を行いました。

アジア・大洋州21の国と地域の赤十字で活動するメンバー41名が、11月15日から27日まで日赤本社の招きで来日し、各都道府県支部での研修に参加しました。山口県支部には、大韓民国青少年赤十字メンバーのキム・リャンフンさんとイ・ユチョンさんが訪れ、16日から22日までホームステイをしながら、日本の伝統文化などに触れるとともに、国を超えた赤十字の人道的価値観を学び友好を深めました。大韓赤十字のメンバーは、山口県の高等学校メンバー2名とともに、23日から静岡県御殿場市での国際交流集会に参加しました。この集会には41名の海外メンバーと山口県を含む全国からの75名のメンバーが一堂に会し、「人間の尊厳」をテーマに赤十字の一員として何ができるのか、何をすべきなのか、議論を深めました。



湯田小学校で書道を体験
ドラえもんは韓国でも大人気



華陵高等学校の生徒と交流
和気あいあいとハイチーズ！

「赤十字救急法講習会」を開催しました。

山口県支部では平成24年度、県内各地域で約300回の「いのちと健康を守る」救急法講習会を開催しました。日本赤十字社の講習事業は誰でも参加でき、誰でも講習を受けて指導員になることができます。この講習をとおして事故防止の思想や万一の時の応急手当などを普及し、「苦しんでいる人を救いたい」という誰もが持っている優しい心を行動に移す自信と勇気を育んでもらっています。



はじめて経験する救急法に
少し戸惑いながらも頑張ってます

赤十字「講習会」のご案内

出張講習をしています。

- ◎救急法
(AED 使用方法、けがの手当)
- ◎幼児安全法
(子供のけがや病気の手当)
- ◎水上安全法
(水の事故防止)
- ◎健康生活支援講習
(高齢者の支援に役立つ介護技術)
- ◎炊出し講習会
(炊出しや防災の知識)

申し込みしていただける方

自治会や地域の集まり・各種サークル・学校・企業団体など
※それぞれ 10 名以上のご参加をお願いします。

申し込みの方法

実施予定日時、場所、内容などを実施の 1 ヶ月以上前までに山口県支部まで、ご相談ください。
このほか、「赤十字の活動等を紹介する講座」の出前講座も行っています。お気軽に日本赤十字山口県支部までお申し込みください。

災害時に役立つ「炊出し講習会」を実施しました。

山口県支部では、災害時の自助・共助につながるよう、県下各地で炊出し講習会を実施しています。

この講習会は、被災後、公的な支援が始まるまでの間、住民が相互に助け合うことを目的に、特殊ポリエチレン袋に米と水を入れて密封し、熱湯で約30分ゆがいて作るものです。12月20日に岩国市周東町の川越公民館で開催した講習会では防災ボランティアが、地域住民16名を対象に炊出しの指導を行い、併せて防災の知識や、災害時の応急手当などを学習しました。



防災ボランティアが指導者として
炊出しの指導を行いました。

山口県内

赤十字施設のご案内

総合病院山口赤十字病院

わたしたちは、地域の皆様に
あたたかな信頼のおける医療を提供します。

総合病院山口赤十字病院

当院は、県央部における基幹病院として、急性期医療を主体とする総合病院としての機能のほか、地域周産期母子医療センターや小児救急医療拠点病院、地域がん診療連携拠点病院などの公的な役割を担っています。

周産期医療においては、新生児の集中治療室であるNICU9床とその後方病床であるGCU6床を有しており、小児科救急医療においては、小児救急医療拠点病院としての2次救急の機能に加え、「山口地域夜間こども急病センター」の設置により、毎日午後7時から午後10時までの間、一次救急にも対応しています。

また、がん診療においては、患者さんの痛みや苦しみを和らげ充実した日々を送っていただく緩和ケアにも家族の方やボランティアの方と一緒に取り組んでいます。

この他、山口県の災害拠点病院として、平素から救護員の育成や救護班の編成、災害訓練などに積極的に取り組んでいます。



〒753-8519

山口県山口市八幡馬場 53 番地の 1

TEL. 083-923-0111 FAX. 083-925-1474

<http://www.yamaguchi-redcross.jp/>

(診療科目) 内科、消化器科、循環器内科、神経内科、精神科、小児科、外科、乳線外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、気管食道科、放射線科、リハビリテーション科、歯科・口腔外科、麻酔科、(緩和ケア科)

(病床) 病床数475床

総合病院山口赤十字病院

山口県赤十字血液センター



小野田赤十字病院

小野田赤十字病院



〒756-0889

山口県山陽小野田市大字小野田 3700 番地

TEL. 0836-88-0221 FAX. 0836-88-2733

<http://www.onoda-redcross-hosp.jp/>

(診療科目)

内科、消化器科、循環器科、呼吸器科、神経科、外科、整形外科、肛門科、皮膚科、眼科、リハビリテーション科

(病床) 一般病床40床、療養病床92床

(老人保健施設) 入所定員100名

地域の皆様が家庭や地域で
安心して暮らせるよう、質の高い
医療・介護サービスを提供します。

小野田赤十字病院

当院は、「健診・救急・高齢者医療」を診療の三本柱に掲げて、内科・外科を中心とした一般病床と、急性期を過ぎても入院が必要な患者さんのための療養病床を併せ持つ「複合型病院」として 良質な医療を提供しています。また、昨年から認定看護師が中心の「摂食・嚥下」、「がん看護」等の看護相談や在宅医療が必要な方への医師と看護師による「訪問診療」も始めています。さらに敷地内に、老人保健施設や在宅介護支援センターを併設して、入所、短期入所、通所サービスを提供するとともに、退院後の療養・介護相談にも対応しています。

血液製剤の安全性・安定供給に取り組んでいます。

山口県赤十字血液センター

日本赤十字社では、全国に47の血液センターと7つのブロック血液センターを設置し、安全な血液製剤の安定した供給に努めています。山口県では、山口市と下関市(献血ルーム For you)の2箇所の施設と県内を巡回する移動採血車により献血者を受け入れています。今後の少子高齢化の進展により、将来的に血液が不足することが予想されることから、10代、20代の若年層世代への献血推進を進めています。

山口県赤十字血液センター



〒753-8534

山口県山口市野田 172-5

TEL. 083-922-6866 FAX. 083-922-7073

フリーダイヤル 0120-456-122

<http://www.yamaguchi.bc.jrc.or.jp/>

多くの皆様から義援金・寄付金のご協力をいただきました。ありがとうございます。

東日本大震災義援金

受付件数 1,818 件

義援金額 1,376,429,286 円

平成 25 年 3 月 31 日まで募集しています。

引き続き、ご協力をお願いします。

NHK 海外たすけあい

受付件数 94 件

義援金額 847,339 円

受付は終了しました。

ご協力ありがとうございました。

高額寄付者のご紹介

日本赤十字社の活動資金にご協力いただいた方をご紹介します

100 万円以上

青見 久代 (岩国市)

秋本 章一 (山口市)

50 万円以上

上田 和子 (宇部市)

10 万円以上

上田ヒサエ (周防大島町)

小野ハリ治療院 (周南市)

末廣 泰生 (山口市)

山本 周作 (山口市)

竜王薬局 (山陽小野田市)

ほか 10 名 (敬称略)

平成 24 年 4 月から平成 25 年 1 月までに当支部受付分。



寄付金付き
自動販売機の
設置のお願い

売上金の一部が赤十字への寄付金となります。設置者の社会貢献活動としてアピールできます。

慶弔金のお返しで
ご寄付ができます



「香典」や「お祝い」、「退院」のお返し等を日本赤十字社山口県支部へご寄付いただけます。

ご寄付いただいた場合、慶弔金に対するお礼状に日本赤十字社山口県支部からのお礼状を添えて、お届け先にお送りします。また、この場合の寄付金は、税制上の優遇措置が受けられます。

皆様からお寄せいただいた活動資金
(社費・寄付金) の流れ

皆さまからの社費・寄付金

自治会
町内会等

日本赤十字社
山口県支部
地区・分
区

(各市町の役場又は社会福祉協議会)

日本赤十字社山口県支部

振込みで…

お近くの郵便局からお振込みいただけます。

[口座番号]

01590-3-4076

[加入者名]

日本赤十字社山口県支部

※郵便局窓口での取り扱いの場合、振込手数料は免除されます。

※税の控除を受けるために受領書の発行を希望される方は、通信欄に「受領書希望」とご記入ください。

赤十字の窓口で…

山口県支部、または各市町の赤十字窓口にお申し出ください。

※税制上の優遇措置がありますので、詳しいことは下記までお問い合わせください。

社費・寄付金について
お気軽にお問い合わせください

日本赤十字社山口県支部

TEL.083-922-0102

FAX.083-932-3615



日本赤十字社 山口県支部

〒753-0094 山口県山口市野田 172-5 TEL.083-922-0102 <http://www.yamaguchi.jrc.or.jp/>